採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎墨東病院

○広尾病院
○大塚病院
○駒込病院
○多摩総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院皮膚科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：皮膚科　沢田　泰之　　プログラム研修期間：5 年
連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 多摩総合
防衛医科大学校病院 / 独協医科大学病院

本プログラムは大学医局への入局にこだわらず、墨東病院皮膚科を研修基幹施設とし、研修連携施設・研修準連携施設を加えた研修施設群を統括する研修プログラムです。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定しています。

【研修方法】

人口 140 万人を有する都区東部医療圏最大の総合病院です。高度救命救急センター、総合周産期センター、感染症病棟などを持ち、様々な疾患において地域医療の中心的役割を果たしています。皮膚科においても、天疱瘡・膠原病などの難治難病、重症感染症・壊疽などの救急や皮膚・皮下腫瘍、皮膚悪性腫瘍などの皮膚外科、下肢静脈瘤・下腿潰瘍などの皮膚の循環障害の診断と治療、他施設では例を見ない超音波検査、CT、MRI などの画像を使用した診断など地域においてなくてはならない役割を果たしています。

専攻医は年間 200 名程度の入院患者を 3 名 1 組のグループで診療し、数多くの希少な疾患を経験することができます。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 1 回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文を作成します。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加します。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	墨東病院											
	（基本 A コース）研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。											
2 年次	墨東病院											
	臨床のみではなく，学会発表，論文作成など臨床研究の基礎を基幹病院で研修した後に，連携病院で臨床を行う。											
3 年次	連携施設											
	連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。											
4 年次	連携施設											
	連携施設は原則として 1 年ごとで異動するが，諸事情により 2 年間同一施設もあり得る。											
5 年次	墨東病院											
	最終年次には，診療チームのサブリーダーとし，難度の高い疾患の治療計画手術計画を立てるとともに，後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。											

● 広尾病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　岩澤　うつぎ
連携をしている基幹施設病院：墨東

当プログラムは皮膚科専門医を取得することを目的としたもので、基幹病院は墨東病院皮膚科です。当院は連携施設にあたります。研修期間は基幹病院が 3 年、連携施設が 2 年の合計 5 年間です。皮膚科で診察する疾患は非常に種類が多く、診察する範囲も頭の先の髪の毛から足の先の爪まで多種多様です。各連携施設の中でも病院によって得意

皮膚科

分野が違ってきます。墨東病院皮膚科は皮膚科の救急疾患を多く扱っており、当科は皮膚外科という皮膚の手術を積極的に行っています。皮膚科の手術は診断をつけて、検査をし、手術の計画をたて、実行し、切除した検体の病理組織を確認するということを１人でできるようにトレーニングしていきます。外来診療も研修開始から半年を目安にひとり立ちできるようにします。 初めの半年で皮膚科の基礎的な部分を研修し、その後に実臨床で研修します。平行して手術、皮膚病理の研修も行います。１年目の研修終了までに皮膚生検、粉瘤や母斑など皮膚良性腫瘍の単純切除術を習得できるようにします。２年目では希望あれば検査科の病理部をローテーションすることもできます。手術の研修では全層植皮、小皮弁が習得できれば理想的です。日本皮膚科学会認定専門医の受験資格では手術の経験も必要になります。当科で経験できない疾患は、基幹病院である墨東病院や、大塚病院などの他の連携病院でも研修できます。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚科（広尾病院）									病理科（広尾病院）		
2 年次	皮膚科（広尾病院）											
3 年次	皮膚科（墨東病院）											
4 年次	皮膚科（墨東病院）											
5 年次	皮膚科（墨東病院）											

● 大塚病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　井上　梨紗子
連携をしている基幹施設病院：墨東

大塚病院皮膚科は地域の中核病院として紹介される患者さんを診療し、院内コンサルテーションに対応することで、感染症からアレルギー性疾患、腫瘍や膠原病といった幅広い疾患を経験することができます。特に当院は、総合周産期母子医療・小児医療・リウマチ膠原病疾患の拠点を特徴に掲げており、当該対応症例が多い特徴があります。また、多汗症、フットケア、アレルギー関連疾患、乾癬の診療に力を入れています。毎日の外来・病棟診療のほか、毎週皮膚病理カンファランス･症例検討会を行っています。主に外来日帰り手術を定時で行っています。院内で行われる各科･各種勉強会が多数あり、皮膚科以外の連携する診療に役立つプログラムに恵まれています。日々の症例の中で、学会発表や論文作成を行っていきます。大塚病院皮膚科の目標は「医師自らが楽しめる皮膚科」です。変遷する皮膚症状を観察し、患者さんがより良い皮膚状態になってもらうにはどうしたらよいか、自ら考え、過去報告を参照し、他医師やスタッフの意見も聞き、実践してみる。その過程で皮膚に対する理解が深まる体験、うまく治療が進み患者さんが喜ぶ体験、仕事に皮膚科を選んで良かったと思う体験をぜひして頂きたいです。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚科											
	皮膚疾患の所見の取り方、記載、真菌検査、皮膚生検、皮膚貼付試験、軟膏処置、創傷処置、光線療法、小手術などを実践しながら学ぶ。											
2 年次	皮膚科											
	必要時に上級医に助言を求めるが、主体的に皮膚科診療が行えるようになることを目標とする。											
3 年次	ER 研修（墨東病院）			皮膚科（墨東病院）								
	指導医数が多く、幅広い疾患を経験できる。特に手術症例を多く学ぶ。											
4 年次	皮膚科											
	主体的に皮膚科診療を行う。自分の得意分野を見出し、同分野の診療レベルを向上させることを目標とする。											
5 年次	皮膚科（大塚病院　他連携施設病院）											
	主体的に皮膚科診療を行う。自分の不足分野を補うべく、他施設での研修も考慮する。											

駒込病院　（連携施設）

指導医責任者：皮膚腫瘍科　西澤　綾
連携をしている基幹施設病院：墨東

指導医の下、都道府県がん連携拠点病院の勤務医として、皮膚悪性腫瘍患者の手術療法、化学療法、放射線療法ならびに緩和医療を中心に習得します。質の高いがん薬物療法を行うために、薬物治療の原則を学び、適応の見極め、治療法の選択を行い、薬剤関連の有害事象に対し対応できる技術を身に着けます。また、当院は感染症センターであるため、感染症関連の皮膚疾患（コンジローマ、ボーエン様丘疹症など）の症例も多く扱っており、CO2 レーザーによる治療も行っているため、皮膚良性腫瘍のレーザー治療の手技が取得できます。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行います。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加します。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加します。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚腫瘍科											
	皮膚良性・悪性腫瘍の所見の取り方、診断に必要な検査の進め方、皮膚生検術、皮膚良性腫瘍単純切除の手技を習得											
2 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											
3 年次	皮膚腫瘍科											
	皮膚良性・悪性腫瘍の診断、がん薬物療法の実施、有害事象管理、皮弁、植皮含む外科手技の習得											
4 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											
5 年次	皮膚科（墨東病院）											
	一般皮膚科の習得											

多摩総合医療センター　（連携施設）

指導医責任者：皮膚科　加藤　峰幸
連携をしている基幹施設病院：墨東

当施設は普通病棟以外に ER、結核病棟、精神病棟など 700 床以上の病床があり、隣接する神経病院や地域の医療機関から多数の症例が紹介されます。当施設の特徴は、担当する医療圏が広いため、疾患のバランスがとれていることです。薬疹や蕁麻疹などのアレルギー性疾患、水疱症、膠原病、リンパ腫、良性・悪性皮膚腫瘍など、幅広い疾患を経験することができます。基幹施設である墨東病院や杏林大学病院で計 1 年間以上の研修を行い、広範囲の植皮術などを経験することができます。

また、新専門医制度に変わり、皮膚科専門医取得のために必要な単位も増えています（日本皮膚科学会ホームページ参照　https://www.dermatol.or.jp/）。皮膚科領域では専門医取得に最低 3 本の論文発表が必要です。当科では年 1 ～ 2 回の学会発表、論文投稿や研究会の参加を勧め、単位取得をサポートしていきます。

皮膚科の研修期間は 5 年間で、基本領域学会の中でも短い期間ではありません。皮膚科医は女性が多く、5 年間の研修中には様々なライフイベントが予想されますが、相談しながらキャリアの継続をサポートしていきます。是非一度見学にいらしてください。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	皮膚科（多摩総合医療センター）											
	皮膚所見の記載や基本的手技（真菌鏡検、パッチテスト、プリックテスト、光線治療、皮膚小手術など）を身につける。											
2 年次	皮膚科（多摩総合医療センター）											
	必要時に上級医に指示を受けるが、一人で外来診療ができる。希望があれば基幹施設病院で研修を受けることができる。											
3 年次	皮膚科（墨東病院）											
	1 年間基幹施設病院で研修を受ける。特に手術症例を学ぶ。											
4 年次	皮膚科（墨東病院）											
	診察・検査・治療を一人で計画することができる。皮膚病理診断ができる。											
5 年次	皮膚科（墨東病院）											
	得意分野の専門性を向上させる。											